

鶴ヶ峰地区

鶴ヶ峰地区は、鶴ヶ峰駅周辺の商店街と周辺の住宅地、南部の市街化調整区域により構成されており、区民生活の要所です。また、障害者・高齢者・子ども等の福祉施設が多く立地しています。

地区内の人口構成は旭区全体と似通っており、多様な年齢層が住むという特徴がありますが、人口・世帯数は少しずつ減少しています。



■めざす地区の姿

垣根のないまち／鶴ヶ峰全体の地域力UP！

- お互いを見守り、あいさつや会話が出来ている。
- 若い人が地域活動に参加している。
- ボランティアが増えていて、地域活動が活性化している。
- いつでも自然に集える居場所がある。
- すべての人に必要な情報が届き、積極的に活用できている。
- 商店街が地域活動に参加し、地域との連携が出来ている。

■3期計画の主なポイント

これまでの活動を継続しながら、世代を超え障がいの有無も関係ない、さらに強い地域のつながりをつくっていくために、新たな担い手の参加や障がい施設との連携強化に取り組めます！

連動する区計画の柱 3 地域の取組で元気力アップ

■目標A

多くの人に参加してもらおう

■具体的な取組

○地域のイベントの活用

- ・お祭り、運動会など現在行われている行事を、さまざまな団体と連携して実施。

【地域に所属するさまざまな団体】

○世代間交流

- ・子どもを取り巻く大人も一緒に楽しめるイベントを実施。
- ・子どもを通して地域行事を知り、ともに楽しむ機会とする。

【地域住民】

○若い人が主役になれる場をつくる

- ・広報やチラシなどを若い人の力を借りて作成。新しい視点で作成することにより、今まで地域活動に目が向かなかった人にも興味をもってもらえる機会とする。

【地域住民（若者のみなさん）】



■目標B

担い手を増やそう

■具体的な取組

○自分の趣味・特技をいかした地域参加

- ・地域の中にはさまざまな趣味や特技を持っている人が多くいる。地域のサロンやイベント等を披露の場とし、活躍してもらおう。【地域住民（趣味・特技をお持ちのみなさん）】



○地域にはたくさんのボランティア活動があることを知ってもらう

- ・学援隊をはじめ様々なボランティア活動があることを、地域の掲示版や広報紙を通じて周知し、ボランティアの募集をおこなう。【地域住民・自治会町内会】

○若い人が主役になれる場をつくる

- ・パソコンやインターネットなどを活用して、広報やチラシづくりなどに参加してもらおう。

【地域住民（若者のみなさん）】



■目標C

見守り支え合うまちづくり

■具体的な取組

○人とつながるきっかけをつくる

- ・住民同士いつでも声をかけあい挨拶をし、身近な知り合いを増やす。【地域住民】

○障害施設と地域との連携

- ・障がいのある方も安心して地域で暮らせるよう、防災訓練や地域行事に参加してもらい、ともに支えあえる体制を築く。【地域住民・障害施設】
- ・ともに安心して暮らせるまちづくりに貢献できるよう、地域に開かれた作業所等を目指す。【障がい者地域作業所連絡会】

○災害時にも支え合えるよう、防災拠点の横のつながりをつくる

- ・防災拠点校連絡会を開催し、実施内容の情報交換を行う。

【防災拠点運営委員会】



鶴ヶ峰地区支え合い連絡会分科会

■障がい者地域作業所連絡会

地域作業所と地域住民との連絡会として、第2期の間で新しく立ち上がりました。
 地域の方々に『まずは知ってもらおう事から始めよう♪』と作業所の紹介の為の一覧を作成し、知ってもらい、つながる第一歩を始めました。
 また、おまつりなどの地域行事への参加や、作業所製品を地域の方に注文して頂いたりと少しずつ繋がりを深めています。

作業所名	住 所 / 業務内容 / 備 考
NPO法人活動ホームふたまたがわ シュガーポット	〒241-0021 横浜市旭区鶴ヶ峰本町2丁目42-21 ビーズ製品、スウェーデン刺繍、ポーチなど手芸品の販売
おだか	〒241-0015 横浜市旭区小高町155-1 一般家庭の除草、剪定、ハウスクリーニング等
木楽舎	〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰2-9-9 第二大幸ビル301 喫茶「ゆいまーる」水～金曜日 11:00～17:00 クッキー・ケーキの販売
天	〒241-0021 横浜市旭区鶴ヶ峰本町1-39-25 買い物サポート事業を行っています
ほっとぽっと	〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰2-1-16 別館を貸し出せます
ほわほわ	〒241-0021 横浜市旭区鶴ヶ峰本町2-46-22 綿製品のステンシルと、羊毛フェルトを使った小物の製作・販売
マインド葦	〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰2-2-3 お弁当(1食500円)やパウンドケーキを製造販売
まどか工房Ⅱ	〒241-0022 旭区鶴ヶ峰1-30-9 喫茶店 月～土 10:30～16:45(オーダーストップ 16:30) クッキー・パウンドケーキ等販売
まどか工房Ⅲ	〒241-0022 旭区鶴ヶ峰2-75-29 お弁当の注文を承り、配達をします(日時、場所、数等のご相談に応じます)
ミコミコ カンパニー	〒241-0011 横浜市旭区川島町1577-5 喫茶店 月～金 10:30～16:00(オーダーストップ 15:30)
もみの木 第2作業所	〒241-0015 横浜市旭区小高町59-2 クッキー・ミニパウンドケーキ等の焼き菓子の販売



■鶴ヶ峰子育て支援連絡会

平成20年に鶴ヶ峰エリアの子育て関係者の顔合わせと情報交換を目的に、子育て支援連絡会を開催しました。平成22年には「鶴ヶ峰地区支え合い連絡会」の分科会として位置づけられ、その後毎年開催しています。地域の子どもたちが安心して暮らせるように地域の関係機関が日頃の活動を共有し、連携を深めています。

<子育て関係機関>

- ・鶴ヶ峰地区社会福祉協議会
- ・鶴ヶ峰地区民生委員・主任児童委員
- ・かるがもサロン
- ・旭区子育て広場 ぽけっと
- ・鶴ヶ峰エリア 小学校
- ・鶴ヶ峰地域ケアプラザ
- ・鶴ヶ峰地区町内会連合会
- ・鶴ヶ峰地区保健活動推進員委員会
- ・こんにちは赤ちゃん訪問員
- ・鶴ヶ峰エリア 保育園
- ・旭区社会福祉協議会
- ・旭区役所

鶴ヶ峰地区社会福祉協議会

■地区社会福祉協議会（地区社協）とは

「自分たちで暮らしている地域の福祉課題はまず、自ら取組解決していこう」という理念から組織される団体で、身近な地域で福祉活動の担い手として活動しています。

■鶴ヶ峰地区社協の様々な活動

【かるがもサロン】

乳幼児の親子で気軽に集い、交流する場です。

毎月第1木曜日（1月、8月休み）

場所：鶴ヶ峰地域ケアプラザ



【ふれあいサロン】

65歳以上の方が気軽に集い、交流する場です。

太極拳、社交ダンス、囲碁等を行っています。

毎月第1・3・4金曜日（1月第1・12月第4休み）

場所：鶴ヶ峰地域ケアプラザ

【鶴ヶ峰地域ケア部】

心の通い合う、あたたかい街づくりを目指し、お互いのたすけあいをモットーに、高齢者・障害者の在宅援助、外出支援を行っています。



【高齢者昼食会（鶴の会）】

高齢者等を対象に、食事会を行っています。

<第1鶴の会>

毎月第2火曜日

場所：鶴ヶ峰地域ケアプラザ

<第4鶴の会>

毎月第3金曜日

場所：川島町西町内会館

<第2鶴の会>

毎月第3木曜日

場所：鶴ヶ峰地域ケアプラザ

<第3鶴の会>

毎月第1木曜日

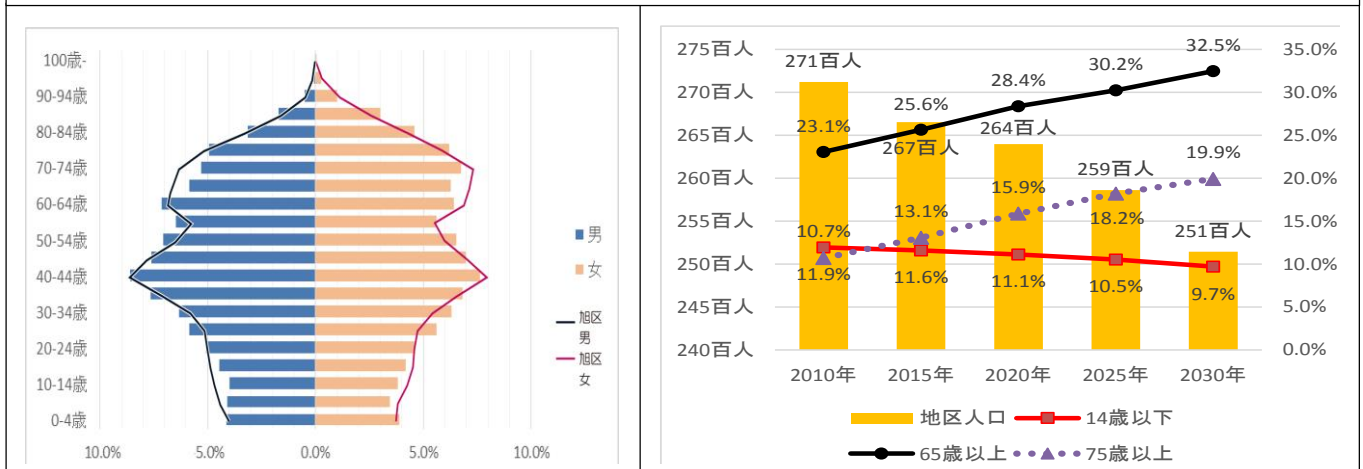
場所：鶴ヶ峰本町町内会館



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ65歳以上及び19歳以下の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約400人減少しました。高齢化率は約2.5%増加しましたが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で概ね12400戸前後で推移しています。また、世帯人員は2015年で2.13人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約26400人、2025年で約25900人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約28.4%、2025年で約30.2%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

5年間で保育施設や福祉施設、大規模マンションや大型スーパー、チェーン店が増えた。一方で子ども会や老人会が解散する地区もあり、生活スタイルの変化や街とのつながりが薄くなってきているのではないかと・・・

その中で鶴ヶ峰地区では

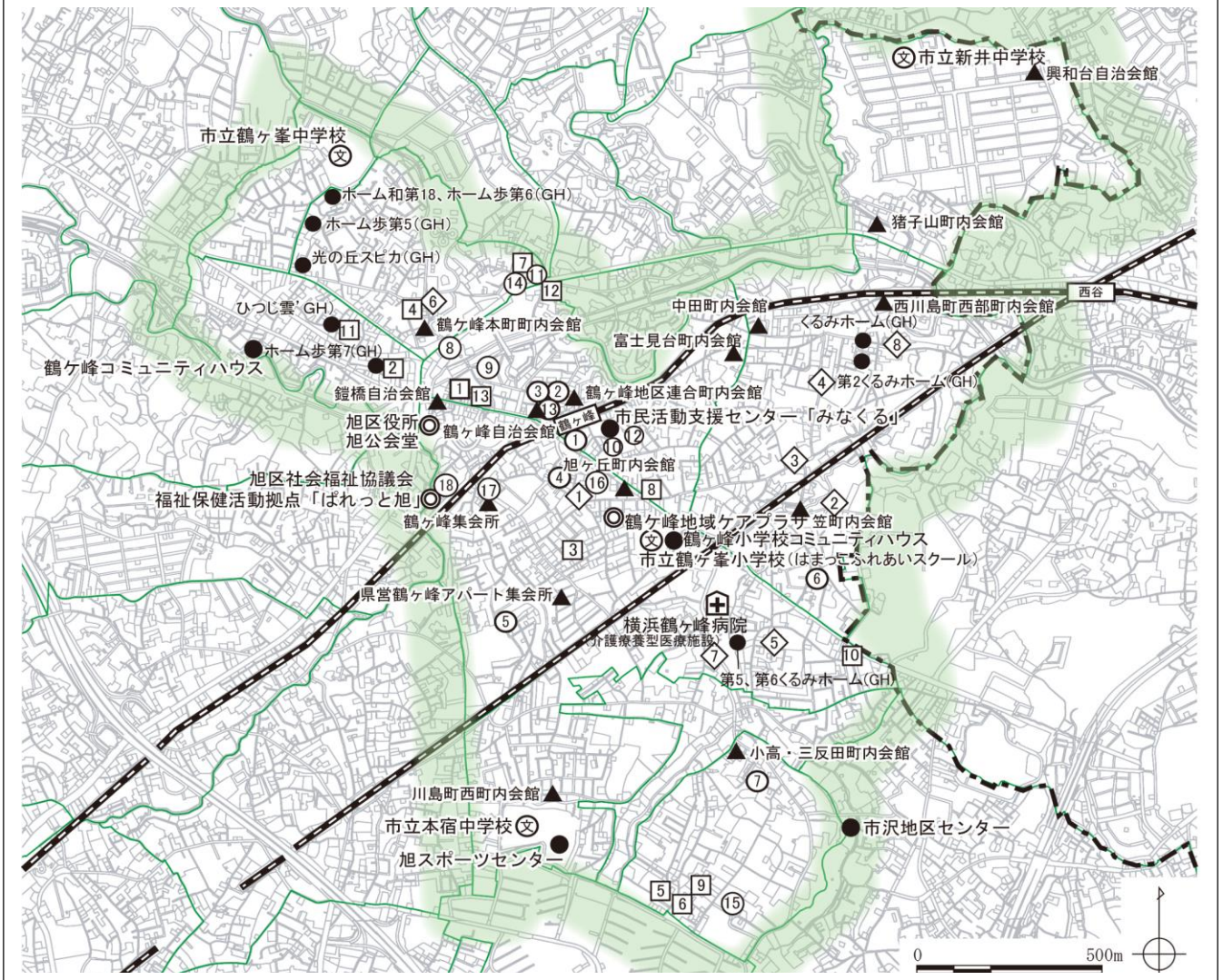
- ・地域ケア部
- ・子育て支援サロン : かるがもサロン
- ・高齢者居場所づくりサロン : ふれあいサロン
- ・高齢者昼食会 : 第1～第4鶴の会
- ・障害者地域作業所連絡会
- ・子育て支援連絡会

などの活動を行ってきました！

■地区の福祉課題

- ・若い人が担い手になってもらうことが難しい
- ・人とつながるきっかけ、機会がわからない
- ・情報が伝わらない
- ・参加する人が決まっている
- ・ボランティアの受入体制ができていない

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

認可保育所

- ① あつぷる保育園鶴ヶ峰
- ② あつぷるキッズつるがみね
- ③ オハナ鶴ヶ峰保育園
- ④ ポプラ保育園
- ⑤ 鶴ヶ峰保育園
- ⑥ 西川島保育園
- ⑦ 上の原保育園
- ⑧ あゆみ保育園
- ⑨ あゆみキッズ保育園
- ⑩ ポプラ第二保育園

小規模保育事業

- ⑪ あさひすまいる保育園

家庭的保育事業

- ⑫ 前島保育室

放課後児童クラブ

- ⑬ わんぱくハウス
- ⑭ あい・しらね

幼稚園

- ⑮ 上の原幼稚園
- ⑯ グリーンヒル幼稚園
- ⑰ 鶴ヶ峰幼稚園

親と子のつどいの広場

- ⑱ 旭区子育て広場ぼけっと

障害者施設

- ① 旭区地域生活支援拠点
ほっとぽっと
- ② 社会就労センターのぞみ
- ③ まどか工房Ⅱ
- ④ シュガーポット

地域活動支援センター(地域作業所)

- ⑤ おだか
- ⑥ 第2おだか
- ⑦ ほわほわ
- ⑧ まどか工房Ⅲ
- ⑨ もみの木第2作業所
- ⑩ ミコモコカンパニー
- ⑪ 天
- ⑫ 木楽舎
- ⑬ マインド葦

小規模多機能居宅介護

- ① ラウレア

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ② 三幸の園
- ③ 神田園
- ④ 遊宴西川島
- ⑤ 愛の郷
- ⑥ シャローム・ミルトスの木鶴ヶ峰本町
- ⑦ かわしまの里
- ⑧ ニチイケアセンター横浜鶴ヶ峰

子ども

子ども

障害者

障害者

高齢者

白根地区



白根地区は、区の東部に位置し、帷子川に流れ込む中堀川を軸に、東西に延びる両側の丘陵地域です。丘陵地は住宅地となっています。区域の南端を国道16号が通り、区域西を白根通りが縦断しています。

人口は横ばいを続けている地区で、高齢者層の率は区の平均より低くなっています。

■めざす地区の姿

人と人とのつながりを広げていこう！～ふれあい支えあうまち白根～

■3期計画の主なポイント

- ・交流の場が緩やかな見守りとして、ちょっとした相談の場として、情報交換の場として、活用されている。
- ・お互いに助け合う連帯感が生まれ、より安全・安心で暮らしやすいまちになっている。
- ・継続的に活動に加わっている人が増えている。
- ・子育て世代が支援を受けるだけでなく、担い手として地域活動に参加している。
- ・多世代の人に情報が届くようになり、地域行事や活動への参加者が増えている。
- ・地域ケアプラザを核にした地域ネットワークが機能し、情報共有システムができています。

運動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり 3 地域の取組で元気力アップ

■目標A

ふれあい交流の場を増やそう

■具体的な取組

A-1 地域交流サロンの充実と新規開設を図る

- ・子どもから高齢者まで気軽に立ち寄り、交流できる居場所をつくる。町内会自治会館の利用促進、現在実施されているサロン活動の充実を図る。

＊地域支援補助金の申請

＊町内会自治会と各団体、支援グループとの連携、協働した運営が不可欠である。

A-2 保育園、幼稚園、小学生、学童保育所児童と高齢者の交流の場を増やす

- ・現在実施されている地域の行事やボランティア活動に世代間交流の機会を増やす。

＊ひとり暮らし高齢者白根ふれあい昼食会

＊ジュニアボランティア福祉体験活動等

- ・民児協・青少年指協・子育て支援団体

A-3 小学校の個別支援学級に通う障害児とその保護者、地域との交流事業に取り組む

- ・障害児余暇支援事業「なかよし」の取組を充実させる。
- ・白根地域ケアプラザ、福寿荘、民児協、支援グループによる連携した事業運営を構築する。

A-4 まちの美化運動、公園愛護会活動への参加を促進する

- ・農作業を通じた交流の場の提供

＊菜園・花壇づくりによる交流

＊環境事業推進協・公園愛護会・町内会自治会ボランティアとの連携

A-5 町内会自治会が中心となり、身近なところでの健康づくり活動を実施していく

- ・町内会自治会館、近隣の公園を利用した「健康講座」「健康体操」「ラジオ体操」の実施
- ・「みな元気 旭！ステーション」「元気づくりステーション」への参加促進
- ・まちぐるみ健康づくり教室（ウォーキング）の継続実施：健康づくり活動部会の取組

A-6 町内会自治会単位の主催による高齢者や子どもを対象とした交流行事、支援活動の取組

- ・町内会自治会の役員や班長又は組長で担うことができる活動、行事から始める。見守り活動、防災・防犯活動、会館や公園を利用した交流活動の実施



活動の担い手を広げよう

■具体的な取組

B-1 あらゆる世代が負担を感じず、気軽に活動に参加できるきっかけづくりの場を提供する

- ・白根カーニバル支援ボランティアの募集
カーニバル実行委員会による受入促進
- ・地域で活動するボランティア団体の情報提供
福祉保健広報誌「ふくほしらね」で告知



B-2 みらい塾受講者の地区からの積極的な推薦と受講後の地域活動への参加

- ・地域の各団体、ボランティア支援グループが受入環境を整える。活動の担い手として役割分担を明確にする。

B-3 リタイア世代の能力(資格・特技・趣味)を活かした、地域活動ができる人材の発掘と登用

- ・受入窓口を明確にする。*福祉保健推進委員会による告知と受入体制の整備、各町内会自治会、団体からの推薦・紹介の促進

B-4 各団体や支援グループが独自に実施している支援事業・行事での各委員や担い手の相互交流の機会を増やす

- ・各団体の横のつながり、委員同士の相互交流の促進、団体同士が連携した地域活動を進める。
*各団体、支援グループのリーダーによる情報交換・話し合いの場をつくる。
*福祉保健推進委員会の役割
*各団体同士の連携協働により活動の担い手不足の解消につながると考えられる。

B-5 学校と連携した小・中・高校生によるボランティア活動、福祉体験活動参加を積極的に受け入れる

- ・小中学校への呼びかけ*行事・活動の告知
児童、生徒、保護者、PTAへ理解を深める
- ・地元高校生徒の地域交流活動行事参加受入を広げる。
- ・地区青少年指導協、民児協との連携した交流事業を企画する。

安心して暮らせるまちづくりを進めよう

■具体的な取組

C-1 災害時要援護者支援の体制づくりを推進する

- ・地区町内会自治会連合会全体で統一した区からの災害時要援護者名簿を活用する。区と協定締結後の体制づくりの過程で、地域独自で名簿以外の対象者の把握を行う。
- ・各町内会自治会の班又は組単位での支援の仕組みをつくる。

C-2 町内会自治会、各団体の連携による地域ぐるみの「見守り」活動を実施する

- ・各町内会での防犯パトロールの実施
- ・小学校児童の登下校「見守り」活動継続
- ・独居高齢者定期訪問「見守り」活動継続
- ・不動の森「学援隊」・民児協委員活動に加えた地域の支援ボランティアの参加を募る。

C-3 あいさつ・声かけ運動を継続して推進する

- ・ポスター、チラシによる広報啓発活動実施
カラーポスターを作成し、町内会自治会掲示板、ごみ集積場、地区公共施設等に掲示

C-4 向こう三軒両隣の「顔の見える関係づくり」を推進する

- ・町内会自治会の班又は組単位での清掃活動の継続と新たな実施
- ・日常のあいさつ・声かけの奨励
*町内会自治会館、集会場の利用による身近な近隣の交流活動の実施



■目標D

地域で情報を伝え合おう

■具体的な取組

D-1 地域とのつながりが薄く、情報が伝えにくい高齢者等に口コミや手渡しにより情報を伝達する

- ・町内会自治会班長や役員による訪問伝達
- ・民生委員の訪問、戸別配付による情報伝達
- ・地域行事開催時に口頭、文書での伝達
- ・町内会自治会未加入世帯への加入勧誘

D-2 町内会自治会による「回覧」での情報伝達の効用見直しを図る

- ・地区町内会自治会理事会で各会長に役員会で見直しを依頼する。
- ・各町内会自治会独自で広報活動、情報伝達方法の工夫を検討する。
* 独自作成の文書回覧、各戸配付の文書作成

D-3 地域ケアプラザと各町内会自治会との連携による情報発信を促進する

- ・地域ケアプラザの情報コーナーの活用
- ・地域ケアプラザの広報紙に情報掲載依頼

D-4 地域の中に様々な情報が集まる公共の場や施設を活用する

- ・町内会自治会館に情報コーナー設置
- ・小・中学校、幼稚園、保育園、地域団体施設、公共施設に積極的に配置依頼

D-5 地域の活動団体、ボランティア支援グループ等の活動情報について、地域全体で情報共有する

- ・情報公開、情報伝達方法を工夫
* 地区連合会理事会での文書配布・回覧
* 各団体代表による情報交換の場を設ける。

D-6 地域福祉保健情報誌「ふくほしらね」の誌面充実を目指す

- ・記載記事の充実：地域の福祉保健活動情報に加えて、各町内会自治会ごとに独自の取組行事や活動について取り上げて掲載する。
- ・広報委員会の役割強化：福祉保健情報の収集、広報と啓発活動、ポスター、チラシの作成、地区地域福祉保健計画の統括部門とする。
- ・現在2回の発行配付のほか、必要に応じ、特別号を発行する。
- ・特別号の発行：第3期地区地域福祉保健計画の内容発表告知記事掲載特集号
* 第3期地区別計画内容を回覧ではなく、全世帯配付で周知することにより、福祉保健計画の目的、必要性について、地域住民により理解を深めてもらう。



白根地区のイベント紹介

“白根カーニバルの開催について”

白根地区最大の地域交流イベントである「白根カーニバル」は、毎年3,000人以上の人々が集まり、様々な地域の団体・施設が、フリーマーケット、模擬店、展示コーナー等に出店、参加している。平成10年11月22日(土)に第1回を開催以後、第16回まで地区ボランティア団体「三水会」が運営してきたが、平成26年第17回から、地区社協の構成団体を中心とした「白根カーニバル実行委員会」を設立し、平成27年10月24日(土)に第18回を開催した。

- ・趣旨・目的：地域の活性化と世代間交流を深め、子どもから高齢者まで地域の多くの人々が一つの会場に集い、地域の絆を築く。
- ・不動丸小学校は、課外授業として全校児童が出席。司会進行、演技のほか、ゴミの分別まで、地域の人たちと一緒にイベントに参加。
- ・鶴ヶ峯中学校生徒会も参加。吹奏楽部が演奏(毎年出演)。



※白根地区町内会自治会連合会は、平成31年3月、設立50周年を迎える。

■ 2期計画から継続して3期にも取り組む活動

●ひとり暮らし高齢者支援

「白根ふれあい昼食会」

*毎月1回開催

【取り組んでいる団体】

白根ふれあい昼食会

(民生委員児童委員・ボランティア)



●中途障害者支援

「双葉会リハビリ支援」活動

*毎月第3火

*民生委員が送迎担当

*ジュニアボランティアと

交流会

【取り組んでいる団体】

双葉会支援グループ

(民生委員児童委員・ボランティア)



●子育て支援

子育てサロン活動

*毎月第2火

*地域の未就学児童と
保護者を対象

【取り組んでいる団体】

白根子育てサロン「ほっとステーション」

(民生委員児童委員・保健活動推進員・ボランティア)



●障害児余暇支援

「なかよし」交流活動

*毎月 第1土・第4水

*児童、保護者と地域との
交流活動支援

【取り組んでいる団体】

白根地域ケアプラザ・民生委員児童委員協議会

福寿荘・ボランティア・子ども・子育て支援部会



●子ども育成支援

*新春子ども大会

*餅つき、凧作り

*どんど焼き：白根不動尊境内

【取り組んでいる団体】

地区町内会自治会連合会・青少年指導員・スポーツ推進

委員・地区福祉保健計画推進委員会

子ども育成支援活動部会



●あさひプレイパーク支援

*白根公園にて開催

*毎月 第1金

第1土

第3日

*11月、1月、3月は、

第2金開催

【取り組んでいる団体】

あさひプレイパーク「みんなの基地」

(地区社会福祉協議会・民生委員児童委員)



●防犯活動

*地域の防犯パトロール

*地区行事での「愛のパト
ロール」

*児童の登下校時の見守り、
交通安全

*あいさつ声かけ運動

【取り組んでいる団体】

地区町内会自治会・不動の森「学援隊」

地区民生委員児童委員・青少年指導員

鶴ヶ峯中学校 PTA

地区福祉保健推進委員会：防犯部会



●防災活動

*防災訓練(9月・2月実施)

*防災トライやる

*避難所宿泊体験

*災害時要援護者支援体制

づくり

【取り組んでいる団体】

地区町内会自治会連合会

地域防災拠点運営委員会・家庭防災員

地区福祉保健計画推進委員会：防災部会



●地域交流活動

「小学生・中学生と地域の
交流」

*地域清掃活動・実習、懇談会

鶴ヶ峯中学校、不動丸小学校

生徒と地域の交流

【取り組んでいる団体】

青少年指導員連絡協議会

地区町内会自治会連合会



●健康づくり活動

「白根地区町ぐるみ健康
づくり教室」

*毎月1回

地区センターなど

*健康体操、ウォーキング

など健康づくり

【取り組んでいる団体】

地区福祉保健計画推進委員会：町ぐるみ健康づくり教室

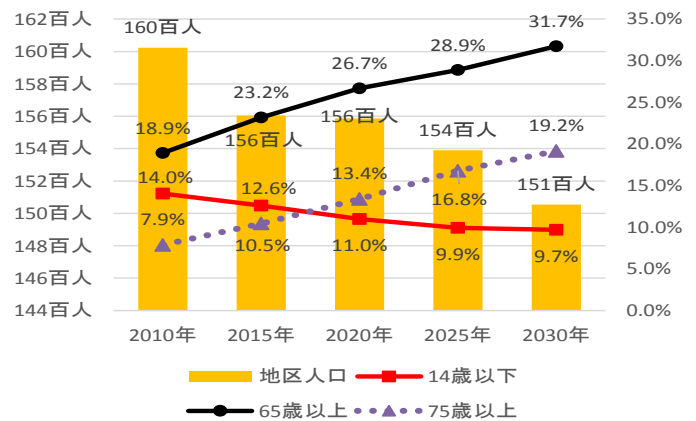
地区社会福祉協議会



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ40歳～54歳の層の比率が高く、70歳以上の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約400人減少しました。高齢化率は約4.3%増加しましたが、旭区平均より低くなっています。
- ・世帯数はこの5年間で概ね6750戸前後で推移しています。また、世帯人員は2015年で2.31人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年では約15600人、2025年では約15400人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約26.7%、2025年で約28.9%になると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



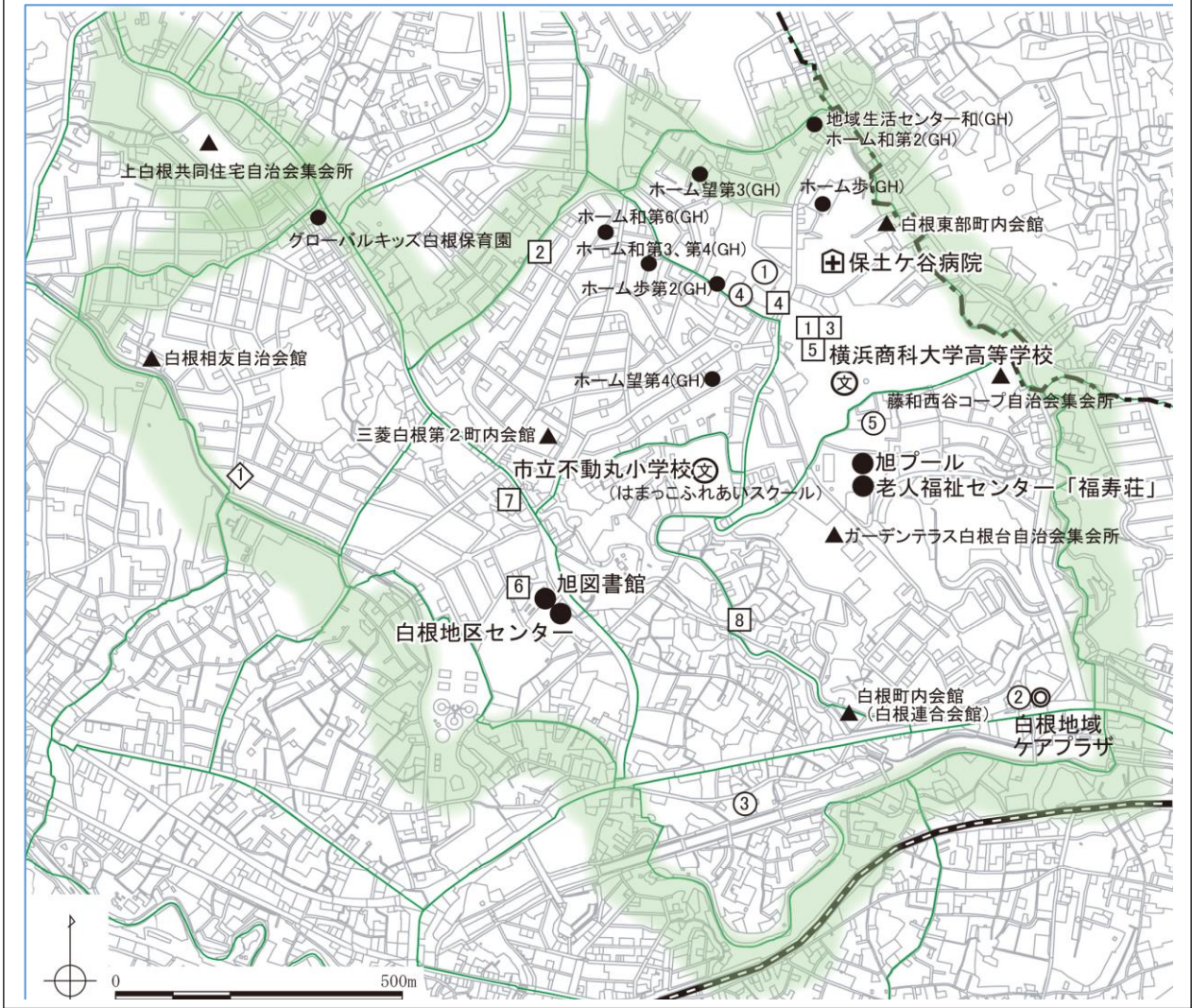
■2期計画の振り返り

- ①地域交流の場の充実と身近な居場所づくり
- ②担い手の固定化と高齢化
- ③新たな担い手の発掘と育成による次世代への引継ぎ
- ④災害時要援護者支援体制の構築
- ⑤子育て、高齢者、障害者支援等の分野を超えた連携の促進
- ⑥地域情報伝達方法の改善

■地区の福祉課題

- ・世代間交流の場をつくる（幼稚園・保育園・小学校＜障害児を含む＞から高齢者）
- ・あらゆる世代が負担を感じず気軽に参加できる場づくり
- ・地域の団体相互の連携による見守り活動
- ・災害時要援護者支援の取組の推進
- ・向こう三軒両隣の顔の見える関係づくり
- ・世代間交流の場をつくる
 - *今ある活動に世代間交流を組み込む工夫をする（プレイパーク・子育てサロンなど）
 - *学校と連携した小・中学校の参加による福祉体験活動の充実（ジュニアボランティア・清掃活動）
- ・地域菜園・花壇づくりによる交流
- ・学校と連携した小・中学生によるボランティア活動の充実
- ・みらい塾受講者の推薦と受講後の地域活動への参加を促す（役割分担を明確にすることが重要）
- ・リタイア世代の能力を活かした活動ができる人材の発掘
- ・各地域活動団体及びボランティアグループが新たな人材の受け入れ環境を整える
- ・地域や町内会自治会単位の清掃活動の実施
- ・近隣の公園での「健康体操」「ラジオ体操」の実施
- ・「みな元気 旭！ステーション」「元気づくりステーション」への参加（介護予防活動グループ）
- ・子育て支援活動団体どうしの連携、協働を促進する
- ・地域とのつながりが薄く、情報が伝えにくい人に口コミや手渡しによる情報伝達
- ・ボランティアグループの活動について、地域活動団体全体で情報を共有する

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども	認可保育所	障害者	障害者施設
	① 横浜市立白根保育園		① 光の丘
	② 太陽の子白根保育園		② 麦の丘
	③ 太陽の子鶴ヶ峰保育園		③ 社会就労センターしらね
	放課後児童クラブ		④ 自立サポートセンター歩
④ 白根学童保育所	障害児施設	⑤ 白根学園児童寮	
幼稚園	障害者地域活動ホーム	⑥ あさひ	
⑤ あたご幼稚園	⑦ 第2 あさひの家	地域活動支援センター（地域作業所）	
	⑧ むくどりの家		
	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）		
	◇ 横浜旭の家		
	高齢者		

旭北地区



旭北地区は、中堀川の上流域一帯の丘陵地に広がる戸建て住宅を中心とした閑静な住宅地です。また、市街化調整区域も多く緑豊かな地区でもあります。

戸建て住宅地に初期入所した世代の構成比が高くなっていますが、年齢構成のデータから次世代の定着もみられます。

■めざす地区の姿

～少子高齢化の進行が顕著な旭北地区～

『高齢者等の見守り・支援体制の充実』『少子化の進行抑制等の活動により人口の減少抑制や活性維持』『交通環境や自然環境、住民相互の見守り環境の整備』により子どもから高齢者までの全世代が「安心して住み続けられる地域づくり」を目指します。

■3期計画のポイント

～2期からの継続の4つのテーマ(部会)に加えて～

部会共通の目標として「地域活動のネットワークづくり」を設定。「地域ケアプラザとの連携」「まちぐるみ活動の周知」「次世代後継者の発掘・育成」を今回新たに計画に加えています。

■目標A (部会共通)

運動する区計画の柱 | 地域の福祉力アップ

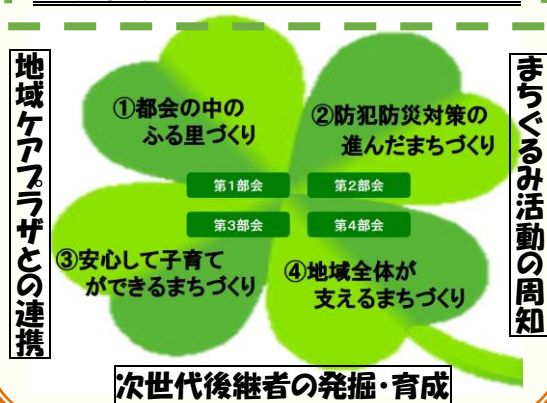
地域活動のネットワークづくり

■具体的な取組

- ・地域ケアプラザとの連携により、ケアプラザの利用・活用を含めたネットワークづくりに取り組む。
- ・まちぐるみ福祉推進会議(地福計画)の広報活動を通じて地域への周知をし、協力を求める。
- ・地域の皆さんが地域ケアプラザやまちぐるみ活動に気軽に参加できる環境づくりをすすめて、次世代後継者の発掘・育成につなげる。

3期は「4つの部会」によるよつばのクローバーを共通課題で取り囲み、まちぐるみ活動の推進に取り組みます。

地域活動のネットワークづくり(共通)



■目標B (第1部会)

運動する区計画の柱 | 地域の福祉力アップ

都会の中のふる里づくり

■具体的な取組

- ・地区街路の早期整備により地区のイメージアップを図り、併せて交通の安全と利便性の向上を目指す。
- ・まちづくりを支える自治会のあり方を考え、新規立ち上げや課題を抱える自治会への支援を進める。
- ・地域の皆さんや小中学校との連携により、中堀川とその周辺を、水生昆虫や植物が生息できる水辺環境づくりに取り組む。



←中堀川清掃活動

花と緑でイメージアップ→



まちぐるみ福祉推進会議

■目標C (第2部会)

安全・安心な防犯防災対策の進んだまちづくり

■具体的な取組

- ・各地域の消火設備の充実と、小中学生の防災活動参加による災害対策と防災意識の向上を図る。
- ・学童の登下校時の見守り体制を拡充する。
- ・認知症等要援護者のサポートシステムの構築による犯罪被害や事故の防止の体制強化を図る。



防災訓練

上白根小・学童見守り



白根小・学童見守り

■目標D (第3部会)

安心して子育てができるまちづくり

■具体的な取組

- ・親子のつどいの場や子育て支援の場の維持拡大を図る。また親に対しては子育てヒントを提供し、親の孤立の防止やストレスの軽減を図る。
- ・親や支援者向けに子どもとの関わり方や虐待防止の研修会を開催し、虐待予防(事故防止)につなげる。
- ・小中学生のボランティア活動への意識の向上を図り、地域活動への参加の広がりを目指す。



竹っこくらぶ／親子で遊ぼう会



虐待防止研修会



小学校校庭(様子)

■目標E (第4部会)

高齢者・障がい者を地域全体で支えるまちづくり

■具体的な取組

- ・高齢者や障がい者に対しては災害時支援に加え、日常的なサポートを含めた見守り・支援体制を充実させ、各自治会との相互連携により地域全体で支える仕組みを確立する。
- ・各地域でのラジオ体操による健康づくりの他、ケアプラザと連携して健康教室や健康相談を推進し、地区全体の健康維持を図る。



むつみ会



ふれあいサロン



ラジオ体操↑

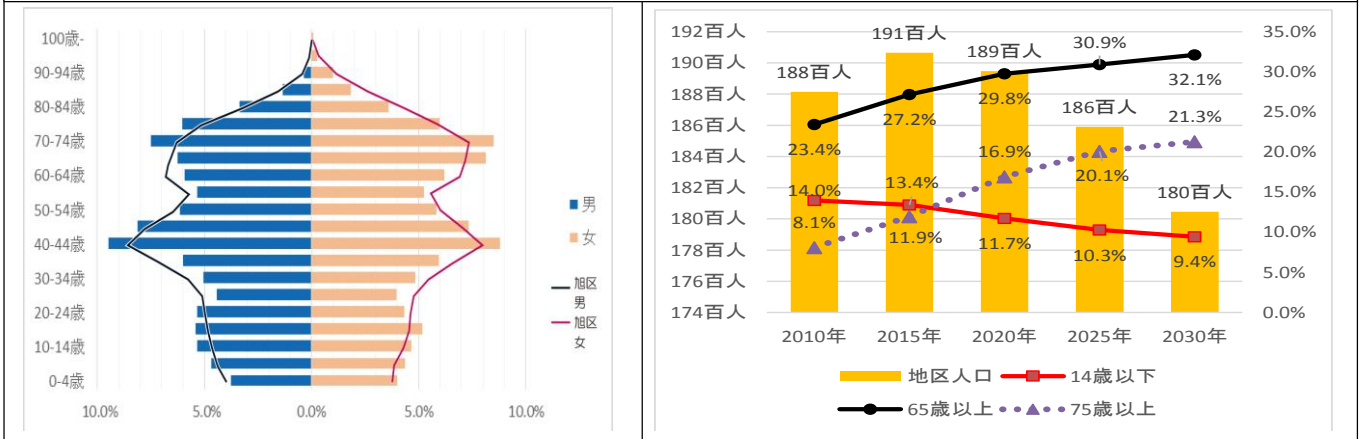


健康教室→

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ 70 歳～79 歳及び 40 歳～49 歳、10 歳～19 歳の層の比率が高く、3 世代による定住傾向が読み取れます。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 300 人増加しています。高齢化率は 3.8%増で、旭区平均とほぼ同じ値になっています。
- ・世帯数はこの 5 年間で概ね 300 戸増加しています。また、世帯人員は 2.41 人/戸で区内の最高値となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2015 年をピークとして、2020 年で約 18900 人、2025 年で約 18600 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 29.8%、2025 年で約 30.9%と増加しますが、伸び率は緩やかになると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

<第1部会>

- ・運営問題で悩む小規模自治会の県警白根自治会の状況を部会が知り、隣接する東急白根自治会を交えて対応を協議。結果、県警自治会は東急自治会に統合を決定。26年4月に東急自治会の一員になった。
- ・旭台循環バス分科会の数回にわたる討議に沿線の自治会トップが集まった。計画は中止となったが、ひとつのテーマに会長が一堂に会し、有意義で盛り上がった議論の場になった。この機会により層別会合の利点を実感した。

<第2部会>

- ・消火栓、初期消火用消火器の場所については、単会ごとに、ほとんどマップ化されている。
- ・詳細検討はできていないが、防災マニュアル(案)を作成した。
- ・全体の調整にまでは至っていないが、学童見守りポイント調査は完了した。
- ・停電時の信号機対策(案)を検討中。但し、警察への働きかけをしているが、まだ、現地での指導は行われていない。

<第3部会>

- ・行政が主導する「赤ちゃん教室」「こんにちは赤ちゃん訪問」を介し、3つの子育て広場が、地域の親子に認知（周知）されるようになった。
- ・2つの保育園の保育士との連携強化により、親子への支援が拡充した。

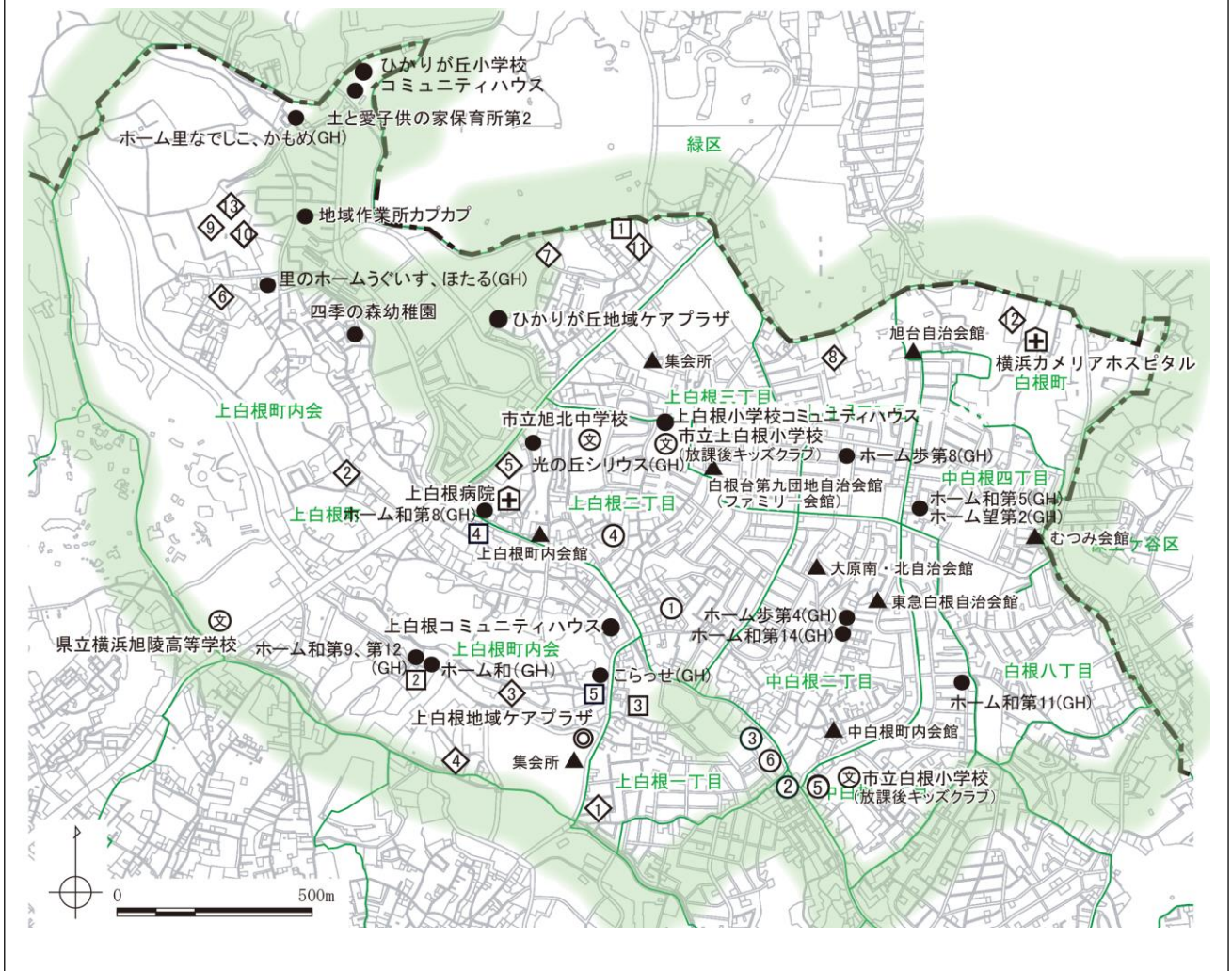
<第4部会>

- ・自治会の見守り・支援状況の把握のため自治会にアンケート調査を実施した。（平成25年3月実施）
- ・アンケート調査の事例紹介の集いを開催した（平成25年9月）。結果、「啓蒙活動」の必要性和「あんしんカード」の見直し・再配布の必要性を確認した。

■地区の福祉課題

- ・要支援者の見守り・支援体制が不十分。見守りの活動は、高齢者だけでなく、障がい者にも広げていくことが必要。
- ・若い親に対する幼児期の子育て支援により、親の育児不安の軽減やDV等の事故の防止につなげたい。
- ・現在行っている学童の見守り活動も十分とは言えない。高齢者の犯罪や事故の防止体制は未整備。
- ・一部で行われているラジオ体操や健康づくりの活動を地域全体に広げていきたい。
- ・ケアプラザ等の地区内施設の利用・活用はまだ十分とはいえない。地域住民が気軽に活用できるようにするための施設活動の周知や、システム作りが必要。
- ・社会に対するボランティア意識は小中学生の頃から育むことが大切と思われるが、現在行われているジュニアボランティアについては受け入れ側の機能的な限界もあり、広く参加できる状況にない。防災活動も含め、小中学生のボランティア活動の場を広げ、意識の向上につなげていきたい。
- ・地区ボランティアの後継者については当地区でも大きな課題である。
- ・「まちぐるみ福祉推進会議」（＝地福+連合活動）の活動に対する地域の理解度が低いように思われる。活動に協力いただくためにも、広報などで周知を図る必要がある。
- ・横浜市中心部や都心へのアクセスが悪いためか、高齢化や転居で空き家になってもなかなか埋まらず、空き家が目立ってきている。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

認可保育所

- ① 土と愛子供の家保育所
- ② グローバルキッズ白根保育園

小規模保育事業

- ③ ちやいれつく上白根保育室

幼稚園

- ④ 上白根幼稚園
- ⑤ 白根幼稚園

親と子のつどい

- ⑥ 親子サロン メダカ

障害者

障害者施設

- ① 偕恵
- ② しらねの里
- ③ 辻のあかり
- ④ 偕恵シグナル
- ⑤ 咲顔の詩

高齢者

小規模多機能居宅介護

- ① ふれあいの里 たちばな

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ② みんなの家 横浜上白根
- ③ サン・フローラ上白根
- ④ シャローム・ミルトスの木

軽費老人ホーム

- ⑤ 上白根園

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

- ⑥ サンライズヒル横浜
- ⑦ 椿寿
- ⑧ グリーンライフ
- ⑨ ヴィラ横浜
- ⑩ ヴィラ 桜ヶ丘

介護老人保健施設

- ⑪ 四季の森
- ⑫ リハセンターさわやか
- ⑬ ケアホーム横浜

上白根地区



上白根地区は、緑区との区境に位置し、中堀川の源流域の北東側が大きく造成されてできた緩やかな南東斜面で、市営ひかりが丘住宅及びUR西ひかりが丘団地が連なっています。

人口は減少傾向にあり、世帯当たり世帯人員は旭区の中で最も少なくなっています。人口構成では、団塊世代の特出が見られます。

■めざす地区の姿

- 誰もが生き生きと安心して住み続けられるまち
- みんなが声をかけ合い、助け合うまち

■目標A

連動する区計画の柱 | 地域の福祉力アップ

災害に備える

■具体的な取組

- 地域防災拠点や連合・各自治会で防災訓練を行い、日頃から災害に備える。
- 連合、各自治会等により防災講演会を行い、住民の防災意識を高めていく。
- 日頃の地域活動のなかで、災害時要援護者を把握していく。
- 地域の障害者施設と日頃から連携して取り組んでいく。



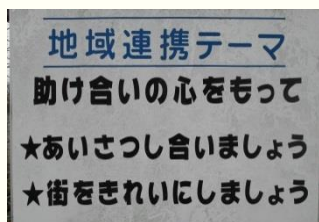
■目標B

連動する区計画の柱 | 地域の福祉力アップ

仲間づくり、多世代交流の機会を増やし、健康づくりを進める

■具体的な取組

- まずは自分の方から挨拶、声かけをして、隣近所の交流を深める。
- ラジオ体操の輪を広げ、多世代交流を進める。
- 常日頃から自治会内で交流を活発にし、引きこもり防止を図る。
- 元気な高齢者のサークル活動等を推進し、健康増進・介護予防を図る。
- 高齢者が外に出る機会を増やし、健康づくりの意識を高めていく。
- 高齢者の昼食会、ふれあいサロン等で住人同士の交流を深めていく。



■目標C

高齢者・障害者・子どもの見守り、地域のつながり

■具体的な取組

- 電話や訪問などにより、ひとり暮らし高齢者等の引きこもり、孤立化を防ぐ。
- 地域のいろいろな人と知り合えるように、いつでも立ち寄り、憩える場所づくりを進め、誰もが気軽に相談できる顔の見える関係づくりを進める。
- 地域にある障害者施設の行事に参加したり、障害のある人が働く店舗を利用して、地域で生活する障害のある人との交流を図る。
- 日常的に子どもたちや高齢者・障害のある人に声を掛け、話しかけて、みんなで見守っていく。
- 高齢者が子どもたちに働きかけ、触れ合う機会をつくり、子どもたちの見守りを進める。
- 親子が参加、楽しみながら子育ての悩みを打ち明けられる行事や活動を広げていく。



■目標D

助け合いの仕組みづくり

■具体的な取組

- 地域の学校の（生徒の）ボランティア活動を地域で応援していく。
- 認知症を学び、地域で高齢者を見守るような風土づくりを行う。
- 外国人居住者との交流を図り、地域の情報の共有化を進める。
- 虚弱な高齢者の支援活動の輪を広げ、未来に繋げる仕組みづくりを進める。



ひかり福祉フェスタ

(毎年11月第3日曜開催)

地域福祉に関わる団体の繋がりを豊かにするためのお祭り

2003年11月～

実行委員団体: 旭児童ホーム・偕恵(シグナル・辻のあかり)・カブカブ

上白根地区社会福祉協議会・サークルそらまめ・薬膳料理の会・ひかりが丘学童保育所
白根学園(社会就労センターのぞみ・しらねのりげんき・麦の丘)

協力団体: サンライズヒル横浜・椿寿・ケアホーム横浜・みんなの家・老健四季の森

ヴィラ横浜・ヴィラ桜ヶ丘・保健活動推進員・CFSコーポレーション・ヤクルト

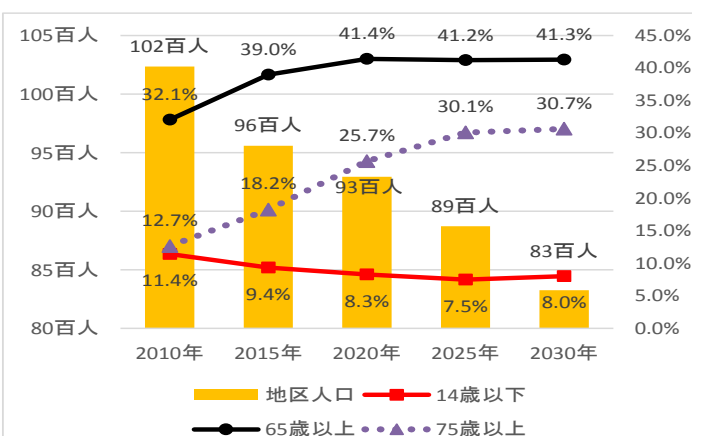
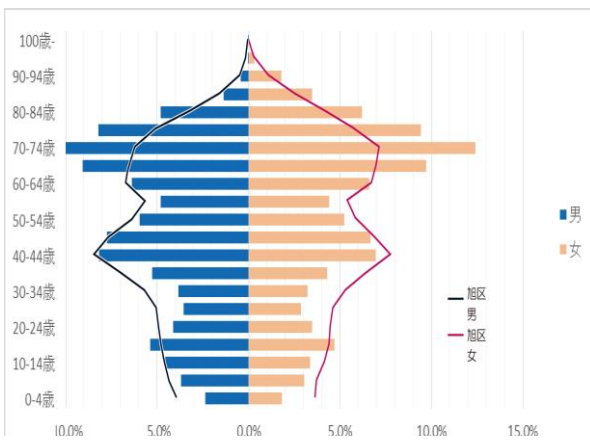
ボランティア: 神輿同好会・神奈川県立横浜旭陵高等学校



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015 年 3 月を見ると、旭区（折れ線）に比べ団塊世代の層の比率が特になくなっていて、一方、20 歳～39 歳の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この 5 年間で約 700 人減少しています。高齢化率は 39.0%で、区内でも高い地区のひとつです。
- ・世帯数はこの 5 年間で概ね 4900 戸前後で推移しています。また、世帯人員は 2015 年で 1.93 人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020 年で約 9300 人、2025 年で約 8900 人と見込まれます。また、高齢化率は 2020 年で約 41.4%、2025 年で約 41.2%となり、高齢化率は 2020 年でピークをむかえたと見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■ 2期計画の振り返り

- ・災害への備え：防災講演会、防災訓練、障害者施設合同での特別避難所訓練、東日本震災被災者の体験談と映画上映会
- ・高齢者障害者の見守り：ひかりサポート運営、一人暮らし高齢者の見守り、エンディングノート勉強会
- ・外国人居住者との共生：インターナショナルサロン
- ・ボランティア活動：上白根中学校の福祉教育に協力、上白根中学校ボランティア部の活動
- ・高齢者の仲間づくり：高齢者昼食会、サロン「いこう」、「つどい」、地区リハビリ教室「あかね会」
- ・地域で子どもを育むための取組：親子サロンしゃべり場、ログハウス未就学児親子への利用促進

■地区の福祉課題

【高齢者】

- ・地域に高齢者が多く住んでおり、災害が起きたときが心配。
- ・ひとり暮らしで行くところがなく、ひとりでテレビを見るだけの高齢者が多い。
- ・高齢となって気力が萎え、外に一步踏み出せない人がいる。
- ・高齢者の中には体力の衰えはあるものの意欲は大いにある人も少なくない。

【障害者】

- ・障害者施設と地域の交流が少なく、施設が行っている行事が地域にあまり知られていない。
- ・障害者施設のボランティアを地域の人から募りたい。
- ・カプカプに立ち寄り人の中で、生活面で心配な人は地域包括支援センターや各相談窓口等に繋いでいる。困った人が駆け込める先を増やしていきたい。
- ・学校と福祉施設との交流を深めたい。

【子ども】

- ・地域に子どもが減ってきている。

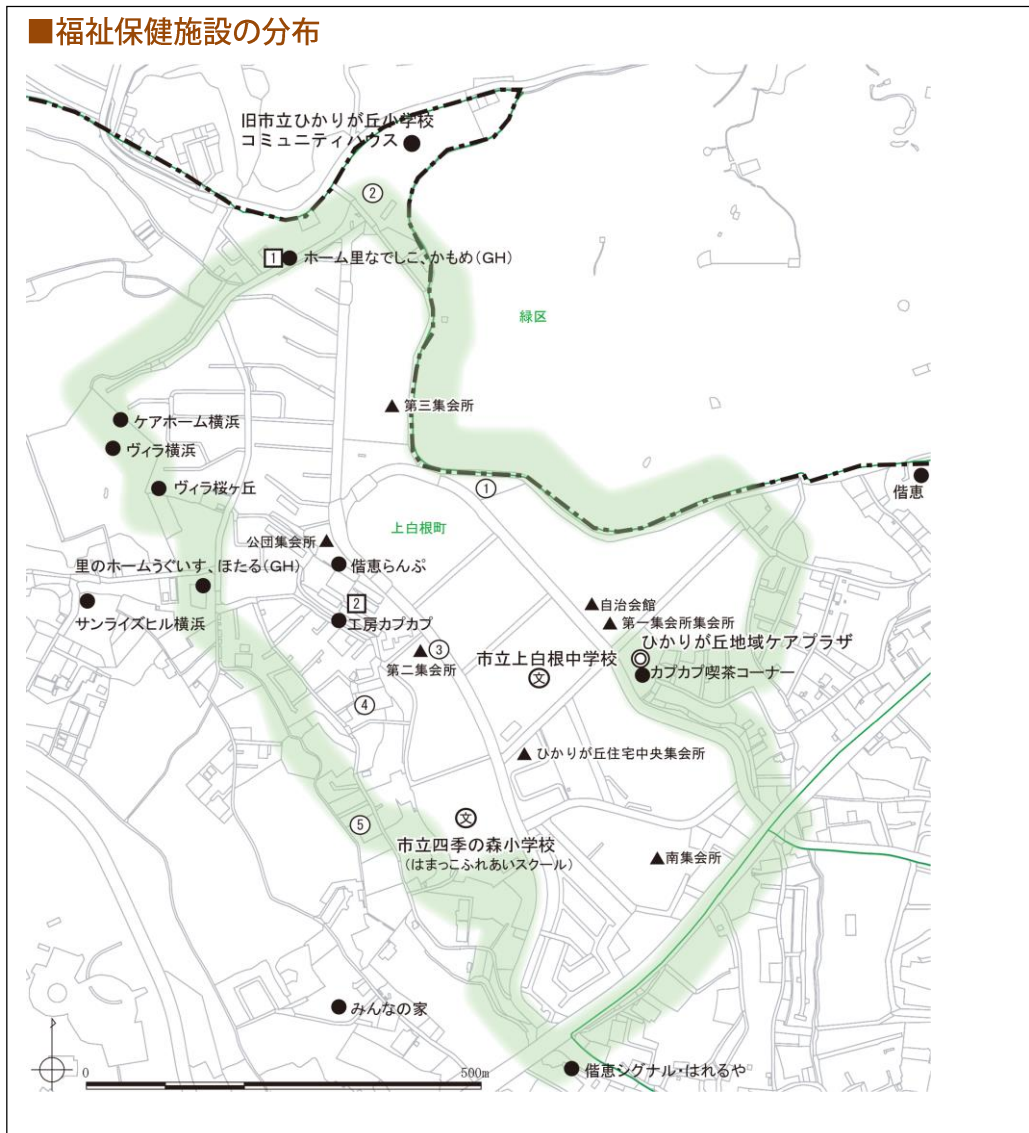
【地域活動の担い手不足】

- ・住民の高齢化が進み、自治会やボランティア活動の団体の担い手がいなくなってきた。

【地域の繋がり】

- ・団地等の新しい入居者は自治会に入らない人もいて、住人の様子が分からない。隣組意識が芽生えない。
- ・団地は築 45 年経っており、入居者は変わっている。昔のことは知らず、地域の繋がりも希薄になってきている。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

認可保育所

- ① 横浜市立ひかりが丘保育園
- ② 土と愛子供の家保育所第2

子ども

放課後児童クラブ

- ③ ひかりが丘学童保育所

幼稚園

- ④ 四季の森幼稚園

児童養護施設

- ⑤ 旭児童ホーム

障害者

障害者施設

- ① しらねの里・げんき
地域活動支援センター(地域作業所)
- ② カブカブ

